



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

美しい風景を残し続けたい 岩屋ダム管理所

岩屋ダム（岐阜県下呂市）に流れ込む馬瀬川は、日本有数の美味しいアユの産地として知られ、日本の伝統的漁法友釣りをはじめ上流域では火ぶり漁、やな漁も営まれています。馬瀬川では、水源かん養保安林や魚付き保全林の整備が行われるなど魚の生息環境にやさしい河畔林が形成されており、環境省が行っている全国水生生物調査では、馬瀬川流域は、水質階級で最も上位のIにランク付けされるなど、地域で行われている環境保全の取組の成果を裏付ける結果となっています。

岩屋ダム管理所では、毎年六月の初旬に地元の小学校四年生を対象とした環境学習会を開催し、ダム下流に生息する水生生物の観察と稚アユの放流体験を行っています。

稚魚の放流体験

昨年六月の観察会では、水生生物と水質の関係、採集・同定の方法など環境省の全国水生生物調査の内容等を学習した後、馬瀬川に入り石の裏などに隠れている水生生物の採集・同定・分類作業を行いました。子供たちは普段は目にしない生き物の姿に強い興味を示すとともに、自分たちが採取した水生生物の分類を通して馬瀬川の美しさを確認するとともに、自然の楽しさや自然環境の大切さを理解してくれました。

また、稚アユの放流体験では、アユの知識としてアユの生息、生息環境、アユ釣りの歴史など

を学習したあと、バケツに小分けされた稚アユ合計三十キログラムを一齐に放流しました。

上流に向かって勢いよく泳いでいくアユの姿を目で追いながらその成長に期待を寄せたところです。

平成三十年度に岩屋ダム貯水池と流入河川で実施した魚類調査では、清流の指標とされるスナヤツメ、アジメドジョウ、アカザなどが確認された反面、特定外来種であるコクチバス、オオクチバス、ニゴロブナ、ハス、ゼゼラ、ホンモロコといった国内外来種も確認されています。

今後も地域と一体となった自然環境の保全に取り組み、美しい風景を残し続けたいと思います。

①水源かん養保安林とは、雨水を吸収して水源を保つための森林です。水源林。

②魚付き保全林とは、①川に日陰を作り低温を好む魚類のために水温上昇を抑える。

③森の昆虫が川に落ちて魚の餌になる。

④落ち葉が水生昆虫の餌や巣作りの材料となる。

⑤森林土壌で濾過された水が魚や水生昆虫を育てる。などをとおして魚の良好な生息環境を保全するものとして実施されているものです。

水生生物の観察



岩屋ダムホームページはこちらから
<https://www.water.go.jp/chubu/iwaya/index.html>

